

令和7年度 沖縄県立芸術大学 芸術文化研究所

文化講座（沖縄学）「**沖縄芸術文化に画期を拓いたイベント**」

概要：沖縄では近代以降、琉球・沖縄の芸術文化についての展覧会や演奏会が開催され、それを通じて芸術諸分野に対する認識や研究が大きく深化・進展した。また全沖縄的な文化イベントにも芸術各分野が参加し、芸術分野の隆盛にもつながってきた。今回の講座では、それら芸術文化にインパクトを与える諸イベントがどのような経緯で開催され、それがその後の芸術文化各分野にどのような影響を及ぼしたのかについて考えてみたい。

※ 講座は対面（50名まで）+オンデマンド方式にて開催の予定。

期日：令和7年4月中旬～令和7年7月中旬（祝日を除く毎週水曜日）午後6時30分～8時

場所：沖縄県立芸術大学首里金城キャンパス 芸術文化研究所3階小講堂

第1回 4月9日（水） 久万田晋（芸術文化研究所教授）

1928年：「第三回郷土舞踊と民謡の会」への八重山芸能出演

第2回 4月16日（水） 鈴木耕太（芸術文化研究所准教授）

1936年：「琉球古典芸能大会（東京）」と組踊の復興

第3回 4月23日（水） 久万田晋（芸術文化研究所教授）

1956年～：「コザ市全島エイサーコンクール」開催とエイサーの発展

第4回 5月7日（水） 樋口美和子（芸術文化研究所共同研究員）

1954年～：「芸術祭（沖縄タイムス社）」開催と琉球芸能のコンクール化

第5回 5月14日（水） 高橋美樹（高知大学教授）

1974年：「琉球フェスティバル」開催と島唄のレコード化

第6回 5月21日（水） 赤嶺政信（琉球大学名誉教授）

1978年：久高島イザイホーが沖縄・日本の民俗学研究に与えた影響

第7回 5月28日（水） 照屋理（名桜大学教授）

1979年～：「南島歌謡大成 全五巻」発刊が琉球文学研究に与えた意義

第8回 6月4日（水） 栗国恭子（芸術文化研究所共同研究員）

1975年：「沖縄国際海洋博覧会」における〈沖縄館〉の意義

第9回 6月11日（水） 対談：柳悦州（沖芸大名誉教授）・新田摂子（芸術文化研究所准教授）

1981年：「沖縄の美 日本民藝館所蔵展」にみる日本民藝館沖縄染織品の公開

- 第10回 6月18日(水) 澤田聖也(東京藝術大学特任研究員)  
1982年～「ハワイ：オキナワン・フェスティバル」開催が沖縄文化に与える意味
- 第11回 6月25日(水) 山田浩世(沖縄県立芸術大学准教授)  
1992年：「平成の首里城復元」が琉球史研究に与えた意義
- 第12回 7月2日(水) 新田摂子(芸術文化研究所准教授)  
1992年：「世界に誇る琉球王朝文化遺宝展」にみる在欧沖縄文化財資料の公開
- 第13回 7月9日(水) 山田葉子(芸術文化研究所共同研究員)  
1993年：「尚家継承 琉球王朝文化遺産展」にみる尚家資料の公開
- 第14回 7月16日(水) 平川信幸(芸術文化研究所共同研究員)  
2009年：「琉球絵画展」戦後の琉球絵画研究の始まり